



まんだらげ

Vol. **56**
2021 SPRING



こいのぼり丹生川渡し(九度山町)

Contents >>>

新体制のごあいさつ

特集 ……薬学部開設

就任挨拶 ……歯科口腔外科 教授

Topics ……マイナンバーカードの健康保険証利用

Information ……癌の病態に関わる新たな分子機構を発見

てんかんの重症度に関連する脳機能指標を世界で初めて発見
覚書締結式及び感謝状贈呈

理念 私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

新体制のごあいさつ



理事長・学長

宮下 和久

安全・安心な医療を最優先に、 高度先進医療をお届けします

和歌山県立医科大学は、本年4月から薬学部が伏虎キャンパスに開学し、医学部と保健看護学部を合わせ、医・薬・看の3学部を擁する医療系総合大学として新たなスタートを切りました。医師、看護師、薬剤師等の高度医療人育成、新たな教授陣が加わった創薬、生命科学などの先進医学研究の推進、医・薬・看3学部と附属病院の連携による医療体制の更なる充実を図って参ります。

本学附属病院は、医療人育成ならびに高度先進医療を実践する県内唯一の特定機能病院として発展を遂げて参りました。患者さんに優しい病院を目指して、例えば、手術支援ロボットダヴィンチなどの最新鋭で低侵襲の医療機器の導入や、外来受診時から入院までを円滑に行えるよう総合的な支援（PFM）を推進して参ります。また、患者さん一人ひとりのがんの遺伝子変異を見つけて治療するゲノム医療を推進するほか、「肺がんセンター」や「脳卒中センター」を設置し、関連する部門が総力を挙げて治療する体制を整えています。そして、何よりも安全・安心な医療を県民の皆様にお届けするよう、大学・病院が一丸となって取り組んで参ります。

なお、新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止策を引き続き徹底して参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



病院長・脳神経外科学講座 教授

中尾 直之

病院全職員一丸となって 和歌山県の医療を守る

和歌山県立医科大学附属病院は、国から『特定機能病院』の承認を受けた県内唯一の大学病院で、(1) 高度先進医療の提供、(2) 優秀で使命感に満ちた医療人の育成、(3) 臨床研究の拠点病院として先進医療技術の開発推進、(4) 高度な医療安全管理体制などの機能を備える必要があります。新体制では、4名の副院長をはじめ全職員一丸となってこれらの使命を着実に果たしてまいります。

高度先進医療の提供 当院は27診療科と新たに設置した「肺がんセンター」、「脳卒中センター」、「小児医療センター」を加えた28中央部門を擁し、あらゆる分野の疾患に対して総合的かつ高度な診療ができる体制を整えており、内科系および外科系の各診療科において目下多くの高難度技術を必要とする先進治療が実践されています。

医療安全管理体制 治療が高難度になればなるほど、その安全性が要求されます。そこで、私たち病院スタッフは病院をあげて医療の安全性確保のために日々様々な取り組みを行っています。加藤副院長には医療安全管理責任者に就任していただき、医療事故ゼロを目指して医療安全管理体制の整備・運営を担っていただきます。

先進医療技術の開発 先進医療開発の源泉となるのが質の高い臨床研究です。山本副院長には臨床研究センター長も兼任していただき、臨床研究の拠点病院としての機能発揮に尽力していただきます。

患者さんの視点に立った質の高い医療 当院では常に患者さんの視点に立った良質な医療を提供できるよう努めてまいります。そのために、多職種が一丸となって入院・治療・退院の一連の流れが円滑に進むように支援させていただきます。川股副院長には患者支援センター長に就いていただき、柳瀬副院長・看護部長とともに多職種間や部門間の連携強化を図り、質の高いチーム医療を実践していただきます。

安全・安心な高度急性期医療を維持して普及します

副院長
救急・集中治療医学講座 教授
加藤 正哉



中尾新病院長のもとで副院長を拝命しました。病院全体でより安全・安心な高度医療が提供できるよう取り組ませていただきます。

私の所属する救命救急センターと集中治療室は、診療科を問わずすべての救急疾患や重症病態に対応する部門ですが、県立医大附属病院としても、受診患者さんはもちろん、直接当院での治療が行われなくても、県内各地域で高度な医療を必要とするすべての患者さんが安心して適切な治療を受けることができるしくみを維持できるように、院内外の皆様と力を合わせて対応させていただきますのでよろしくお願いたします。

高度先進治療を県民全体に届ける

副院長
内科学第3講座 教授
山本 信之



和歌山県立医科大学附属病院は、県内唯一の特定機能病院として、最先端の治療を安全に県民の皆様へ届ける責務がございます。本院では、医師・薬剤師・看護師だけではなく、医療スタッフがー丸となって、先進機器、薬剤等の導入・評価に取り組んでおります。和歌山県は、南北に長く高齢化も進んでいる地域ですので、県外ではなく、居住地のほど近い場所で、先端治療を含む納得のいく診療を受けていただくことが必要不可欠であると考えております。中尾新病院長のもと、副院長の一人として、そのような医療環境を整えるべく、全身全霊を尽くしていく所存でございますので、どうかよろしくお願申し上げます。

安心・満足・信頼の病院を目指して

副院長
麻酔科学講座 教授
川股 知之



このたび、中尾新病院長のもとで副院長を拝命いたしました。

昨年来、新型コロナウイルスが猛威を振るい、「マスクの着用」や「ソーシャルディスタンス」などの取り組みにより、院内の様子も一変しました。患者さんと病院スタッフの距離も少しばかり離れがちです。

そのような状況だからこそ、高度先進医療を提供する大学病院の役割を果たすとともに、「すべては患者さんのために」という原点に立ち返り、患者さんに安心して満足のいく医療を受けていただき、ひいては地域からより一層の信頼を得ることができましよう、努力して参ります。

どうぞよろしくお願申し上げます。

地域での生活を見据えた看護の提供

副院長
看護部長
柳瀬 安芸



このたび、中尾新病院長のもとで副院長・看護部長を務めさせていただくことになりました。

和歌山県では、少子高齢化がすすむなかで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「地域 包括ケアシステム」の構築が推進されています。

このような中で、県内唯一の特定機能病院として、安心して高度急性期医療を受けていただくと同時に、患者さんがどこにいてもこちよ生活ができるよう、地域から当院、そして当院から地域へと看護を繋ぐことができる仕組み作りを行い、患者さんから選ばれる病院であり続けられるよう努力して参ります。

薬学部開設

近畿で唯一の公立大学薬学部が誕生

令和3年4月、本学は和歌山県内で初めて薬学部を開設しました。医学部、保健看護学部が続く3番目の学部となり、本学は医療系総合大学として大きな歩みを進めていきます。

県では、薬剤師の高齢化や地域によっては薬剤師不足が生じており、薬剤師養成は重要な課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症等の未知の病気に対して、ワクチンや治療薬の開発が求められており、薬の役割が大きいものとなっています。本学は薬学部を開設することで、地域で活躍する薬剤師や薬をつくる国際的な薬学研究者を養成します。

薬学部が位置する伏虎（ふっこ）キャンパスは和歌山城下にあり、和歌山駅や和歌山市駅からの交通アクセスが良好な場所となっています。伏虎キャンパスは、講義室や実習室（写真1）だけでなく、薬剤師養成を想定して模擬薬局や調剤室等、医療現場に対応した最



(写真1) 伏虎キャンパス内 実習室

新設備を整えています。

薬学部では、6年かけて薬剤師に求められる知識・技能・態度を学びます。薬の基本となる自然科学や薬の性質、薬物療法等を学びますが、まず1年次には附属病院での早期臨床体験や患者さんからの話を通じて医療人としての意識を高めます。専門的な知識や技能だけでなく、人の命と健康を守る者としての使命感や責任感、倫理観をもつことが求められるからです。5年次には、薬局と病院、それぞれ11週間の現場実習を経験します。附属病院での実習では、処方せんに従って薬を揃える調剤業務だけでなく、入院している患者さんに薬の説明を行い、薬の服用後も患者さんから話を聞いて、薬の効果は出ているか、副作用は出ているかを確認する病棟業務も予定しています。緊張感ある実習を通じて、学生は薬剤師としての役割と責任感を理解し、卒業後には、患者さんに寄り添う薬剤師として成長することになります。

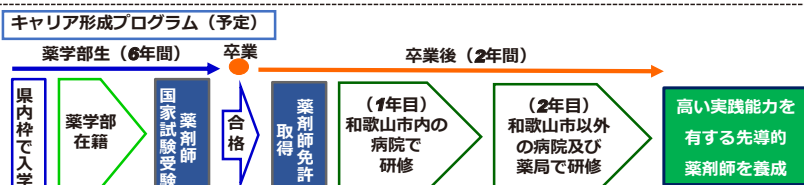
薬学部は、入学試験の学校推薦型選抜において県内枠を設けました。和歌山県の高校を卒業する方、保護者が県内在住の受験生のための制度です。この制度で入学した学生に対しては、地域医療の意義や重要性を実感してもらうため、卒業後2年間、県内の医療機関で研修を行います（図1）。研修後には、和歌山県で指導的な立場を担える薬剤師として活躍できる人材を養成します。

薬学部による卒業後臨床研修

全国初の取組

医学部生は卒業後（医師免許取得後）、医師法により臨床研修（2年以上）が義務付け
 ※歯科医師は卒業後（歯科医師免許取得後）、歯科医師法により臨床研修（1年以上）が義務付け
 薬学部では卒業後（薬剤師免許取得後）、法律による臨床研修の義務付けはない

県内枠の入学生に対し、卒業後（薬剤師免許取得後）、
 県内医療機関での臨床研修（2年間）を義務付け



(図1) 卒後臨床研修



薬学部長
太田 茂

本学薬学部は、教育研究面において附属病院と大きな関わりをもちます。

教育面においては、高い実践能力を有する薬剤師を育成するため、最先端の医療を提供する附属病院で学生実習を行います。学生は病院薬剤師の技術を吸収し、現場での問題発見・課

題解決能力を身に付けると同時に、患者さんに寄り添った姿勢を学びます。

また、研究面においては、今年の4月に運用を開始する次世代医療研究センターで附属病院との共同研究を行います。薬学部の基礎研究で得られた研究成果を附属病院の医療現場で応用し、逆に附属病院で生じた事象を薬学部の基礎研究を経て創薬や新しい治療法の開発につなげます。

このように、薬学部と附属病院が深く連携することで医療の向上に貢献してまいります。

次世代医療研究センターを設立し、臨床研究・基礎研究を推進

薬学部開設と同時に、附属病院に隣接した場所に「次世代医療研究センター」を設立しました。1階は附属病院で実習する学生の学習室や多人数が参加できるセミナー室があります（図2）。2階には、薬物動態の解析室を設けており、ここでは附属病院の薬剤師が、それぞれの患者さんに応じた安全かつ有効な薬物治療を行うために、血液中の薬物濃度を測定し、薬物の投与設計を行う予定です。3階のバイオメディカルサイエンスセンターでは、患者さん同意のもと病理組織を保管し、その試料を研究者に提供して、病気の解明や治療法及び予防法の開発を行います。また、最上階の4階は企業との共同研究室を設けています。次世代医療研究センターでは、3学部や附属病院との連携だけでなく、企業との産学連携により、本学発の医薬品創製を目指して研究を行います。

薬学部開設に先立ち、3月21日に伏虎キャンパスの竣工式が執り行われました。和歌山県知事、和歌山

市長、和歌山県内の医療系団体の方々約80名を招待し、本学関係者とともに薬学部の開設を祝いました（写真2）。

薬学部は、和歌山県民からの熱い期待を背負いながら、高い実践能力を有する薬剤師の養成や国際的な薬学研究を通じて、県内医療の向上に貢献できるよう努めてまいります。



（写真2）竣工式の様子



（図2）次世代医療研究センター

教授就任挨拶

和歌山における歯科口腔外科診療の更なる発展を目指して



歯科口腔外科
教授 松村 達志

令和3年3月1日付で和歌山県立医科大学歯科口腔外科学講座教授を拝命いたしました。皆様方に謹んでご挨拶申し上げます。

当教室は昭和23年に設置されていた歯科が源となり、昭和46年に歯科口腔外科学講座として開設された伝統ある教室です。先代の先生方が築いてこられた当教室を和歌山県唯一の大学歯

科口腔外科として更に発展させるべく、診療、研究、教育のバランスを取りながら運営し、微力ながら和歌山県の地域医療に尽力する所存でございます。

口腔は、食べる、話すといったQOLに直結する機能を有するため、歯科口腔外科疾患治療では、口腔機能を念頭に置いた治療が要求されます。そのため、標準治療をベースとした診療体制に加えて関連診療科との密な連携をはかることにより、安心安全で高度な診療を実践します。さらに、歯科口腔外科疾患以外に対しても、口腔ケアを始めとした周術期等口腔衛生管理を通じて、患者様の口腔機能の維持、改善に努めて参ります。

経歴

- 平成5年 広島大学歯学部歯学科 卒業
- 平成5年 大阪大学歯学部 口腔外科学第二講座 入学
- 平成5年 大阪大学大学院歯学研究科博士課程 入学
- 平成9年 同 博士課程 修了
- 平成9年 国家公務員共済組合連合会 大手前病院 歯科口腔外科 医員
- 平成11年 大阪大学歯学部附属病院 第二口腔外科 医員
- 平成14年 米国ニューヨーク大学医学部微生物学教室 研究員
- 平成18年 岡山大学病院 口腔外科 (再建系) 助手
- 平成23年 岡山大学大学院 顎口腔再建外科学分野 助教
- 平成27年 岡山大学大学院 顎口腔再建外科学分野 講師
- 令和元年 岡山大学大学院 顎口腔再建外科学分野 准教授
- 令和3年 和歌山県立医科大学 歯科口腔外科学講座 教授

診療項目 (対象疾患)

顎口腔領域の腫瘍、炎症、外傷から三叉神経障害まで幅広い分野の口腔外科疾患全般を診療対象としております。主なものは、噛み合わせの構築、回復を目的とした顎変形や外傷の治療、歯科インプラント補綴を前提とした顎骨増量術、顎関節症、舌神経や下歯槽神経といった三叉神経障害に対する神経修復などです。

専門外来など

口腔外科専門医、認定医が行う一般診療に加えて、三叉神経障害に対する専門外来を開設しております。

Topics

マイナンバーカードの健康保険証利用が始まります！

2021年度からマイナンバーカードを健康保険証として利用することが可能になります。マイナンバーカードのICチップまたは健康保険証の記号番号等により、オンラインで保険資格の確認を行うことができます。これにより加入する健康保険(保険者)が変わった場合でも、新たな健康保険証の発行を待たずに医療機関を受診できるほか、高額療養費制度を利用する際の認定証の申請及び持参が不要になります。

当院では各外来の受付に顔認証付きカードリーダーを設置し、本人確認及び保険資格の確認を行います。なお、マイナンバーカードをお持ちでない患者さんは、これまでどおり健康保険証での受診が可能です。

マイナンバーカードの保険証利用には、事前の申込みが必要となります。申込方法等の詳細は、厚生労働省の下記ホームページをご覧ください。

マイナンバーカードの保険証利用について
(被保険者向け)

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08277.html



癌の病態に関わる新たな分子機構を発見

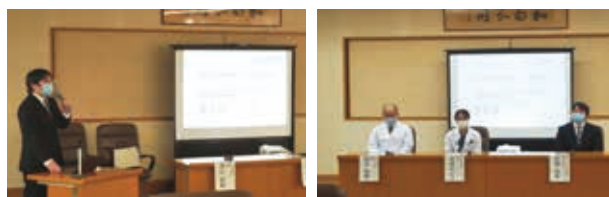
本学生化学講座の西辻和親講師、池崎みどり助教及び産科・婦人科学講座の岩橋尚幸博士研究員らの研究グループは、卵巣癌をはじめ、多くのがんで変異が認められる代表的ながん抑制タンパク質 p53 について研究を行い、癌の病態に関わる新たな分子機構を発見しました。

近年、この p53 が神経変性疾患で見られるような p53 アミロイド凝集体 (p53 アミロイド) を形成することが分かってきましたが、どのようにして p53 アミロイドががん細胞からがん細胞へ伝播していくのか、その詳しい機構については明らかにされていませんでした。この研究では p53 変異型卵巣癌患者の癌組織には p53 とヘパラン硫酸糖鎖が沈着していることに着目し、その機構の解明を目指して p53 変異型卵巣癌由来の細胞株などを用いて実験を行いました。

その結果、ヘパラン硫酸糖鎖が癌細胞による p53 アミ

ロイドの分泌や取り込みを仲介することにより p53 アミロイドの伝播を司っていることが明らかになりました。また細胞により取り込まれた p53 アミロイドが受け手側の細胞の正常な p53 の機能を妨害していることも分かりました。

このことから、有用な治療標的遺伝子が見つからない p53 変異型癌 (卵巣癌、大腸癌、乳癌、肺癌など) について、ヘパラン硫酸糖鎖やその硫酸基修飾を標的にした新たな治療法の開発が期待されます。本研究成果は米国科学アカデミー紀要に掲載されています。



てんかんの重症度に関連する脳機能指標を世界で初めて発見

てんかんは大脳皮質の過剰興奮によって、意識消失やけいれんなど様々な症状を引き起こす慢性神経疾患であり、年間発病率は 10 万人あたり 45 人とされています。てんかんの治療の第一選択は、薬物療法 (抗てんかん薬) ですが、薬物療法で十分な発作コントロールが得られない場合は、外科治療が選択肢の一つとなります。しかし、手術でも十分なコントロールが得られない症例もあり、その原因としては、従来の診断や検査で検出される情報だけでは、術前の脳の状態の評価が不十分であるということが考えられます。

そこで、本学脳神経外科学講座の中井康雄助教、中尾直之教授及び生理学第 1 講座の金桶吉起教授らのグループは、難治性部分てんかん患者 25 人と健常者 582 人に対して、安静時機能的 MRI を使用した脳機能ネットワーク解析により脳の各部位でのネットワークの特徴を数値化し、脳の状態を評価しました。

その結果、てんかん患者では、健常者に比べて基準値を超える領域が多く、難治性部分てんかんに共通するネットワークの変化が明らかになりました。また、つながりの強い領域が多いほど、罹病期間が長く、使用している抗てんかん薬の数も多い傾向にあり、この指標がてんかんの重症度に関連していることも示唆されました。

この脳機能指標は、難治性てんかん患者における外科治療の適応、抗てんかん薬や外科治療の治療効果判定に有用となる可能性があり、個々のてんかん患者の脳の状態に合わせた治療方針の決定やてんかん病態解明の一助になることが期待されます。



覚書締結式及び感謝状贈呈 ～エバグリーン廣基株式会社からご寄附をいただきました～

この度、本学が実施する優れた医療人の育成、先端医療・地域医療の充実及び学術研究の発展に資することを目的に、エバグリーン廣基株式会社から 1 億円のご寄附をいただき、令和 3 年 3 月 1 日に覚書の締結及び感謝状の贈呈を行いました。

本学ではこの寄附金を「エバグリーン基金」として管理し、令和 3 年度からの 10 年間、「学業優秀賞」「医療功労賞」など本学学生や大学及び附属病院の教職員を顕

彰する事業に活用させていただきます。ご厚意に応えられるよう今後も一層地域医療の充実等に努めてまいります。本当にありがとうございました。



予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などから FAX でお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターに FAX 送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関に FAX 返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援センター
FAX 番号：073-441-0805
受付時間：月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② **「当院予約センター」**に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター
電話番号：073-441-0489
受付時間：月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

***** 看護師・助産師募集中 *****

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。
※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
下記までお問い合わせください。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課)
<https://www.wakayama-med.ac.jp/>
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺 811-1



患者さんの権利

当院では、受診される皆様は、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。